



英国最大のオリエンテーリング大会。今話題の TempO(テンポ)の本格的なトライアルに参加した。TempO 初体験記。

(TempO 競技について解説した本誌 2008 年 2 月号の記事を併読されたい)

JK 大会

毎年のイースター休日には 英国でのオリエンテーリング発展に大きく寄与した Jan Kjellstrom(ヤン・チェルストロム)の功績を記念する英国最大規模のいわゆる JK(ジェイケー)大会が開催され英国中のオリエンティアが馳せ参じる。

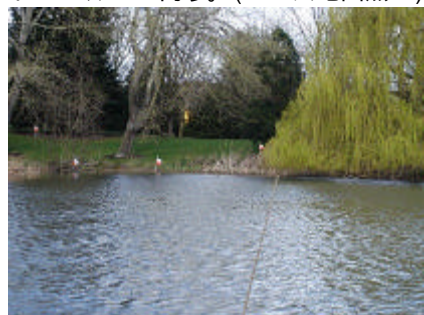
大学構内の自然公園エリア

JK2008 の Day1 Sprint 競技と同時開催の TempO は、ロンドン都心から約 50km 南西の地方都市 Guildford(ギルフォード)のサリー大学の広大なキャンパス内の公園部分を使って行われた。

クラスはひとつだけ。一般は 5 英(約 410 円)の参加費、ジュニアは半額。いずれも Si チップのレンタル料を含む。

受付テントのそばに 独立樹と植込みを利用した実戦さながらのモデルコントロールがあり、ここで詳しい競技方法や、Si を使った解答方法を説明。

その後指示に従って約 300m 先のコントロール へ向う。(コース地図無し)



林、池、小川、草地等が広がる C-

600m のコースに 6か所の DP、合計 28 課題(T/C) が

2008.02 号の本誌で紹介した TempO の基本的説明では、「ひとつの DP で二つの T/C」と書いたが、今回は 6 DP でそれぞれ 4,5,4,4,6,5 の合計 28 個の T/C(課題)が待ち受けていた。(T/C 数は事前には知らされない)

DP 担当役員は各 1 人だけの電子パン

チ方式。DP には Si ステーションを使った解答用ユニットが地上 60cm ほどの高さに設置されている。



解答用 Si ユニット。6ステーションで構成

フラッグは全て 4個 + 「Z」

解答用 Si ユニットにはステーションが 6 個搭載されている。([A,B,C,D,Z] と [S] の 6 個が 3 個ずつ上下 2 段に並び。) E が無いのは、解答用ユニットのスペースが大きくなって場所をとるためである。このため各コントロールでのフラッグは最大で A-D の 4 個。(E が無いから易しいかとの予想は誤算)

ともかく T/C で「Z」があるのは、緊張度が増し精神的プレッシャーは極大。しかし、熟考すれば「Z」は判断可能。

Si 器具を使った TempO

競技者が DP 位置につくと役員がフラッグ数を確認させた後、ユニットの右下の [S](スタート)ステーションに Si チップを差し込むように指示する。(フラッグが左右に大きく広がっている場所があり、わずかな確認時間を与えたようだ。)

Si ステーションからのピープ音が鳴ると同時に地図が見せられる。競技者は A-D,Z が表示された 5 個のステーションのいずれかに Si チップを差し込むことで解答する。そして時間を空けずに直ちに次の課題に移る。

ふたたび [S](スタート)ステーションに Si チップを差し込み、ピープ音が鳴ると次の地図が見せられ、解答する。このくりかえしで競技が進む。



コントロール は植生界と柵を使ったもの。植生界が枝先か木の幹か、どこを探っているか やはりあいまい。A フラッグがうーんと左に離れていて見落としそう。なにがなにやら慣れないうちに終わってしまったのが本音。

磁北線方向が地図毎に違う

コントロール では、前方の傾斜面の上 30m ほど所の茂みと、独立樹の組み合わせを南に見る課題が 5 つ。ここで何かおかしいぞ・・と気付いたのは、見せられるそれぞれの課題マップの傾きが違うのだ。当然に磁北線の矢印方向が地図によって異なっているではないか。

おかげで「T/C 地図は正置した状態で渡され、地図を動かす必要はない」ことに慣れている者にとっては、いささか混乱することになり、毎課題ごとに方角確認が必要となる場合があった。

後で判ったその理由は、正解のフラッグを正面に見る方向に地図を傾けているのだ。一件親切そうに見えるが、このやり方は正解誘導につながるのだから通常は避けることになっているのだが・・

同じフラッグ・異なる位置説明

もうひとつの「新発見」というが「ショック」だったのは、同じコントロールで、同一フラッグを異なる位置説明で二度使っているのだ。

たとえばこの では、「独立樹と独立樹のあいだ」に合致するフラッグは、また、「藪の北西側」のフラッグでもあったのだ。フット O では常識の、ひとつのフラッグにはひとつの位置説明・・と身についている筆者には、最初は訳がわからずひたすらうろたえる。

このケースが出てくるのは TempO だけだろうがすっかり混乱してしまった。

遠距離コントロールはやはり

コントロール は池を隔てた対岸にある特徴物を見る 4 課題。最も遠いフ

ラッグまで約 100m あり、視力の弱って
 きている者には状況確認が難しくなる。

また、大きく枝を張った柳の芽吹き
 の明るい黄緑が目立ってその陰の特徴
 物が判別しにくく、日差しの変化でも
 認視度が変わる。遠距離コントロール
 は、やはり、全ての競技者に平等な競
 技条件を与えることは難しいと思った。

近すぎても また 難しい

の DP に隣接して があり、こちら
 は DP から 15m ほどの近くの 4 本の独立
 樹を使っての 4 課題。その全てが「
 の独立樹と独立樹のあいだ」。フラッ
 グ群を斜めに見るため「あいだ」が意
 外に確認しづらい。設計の妙か。

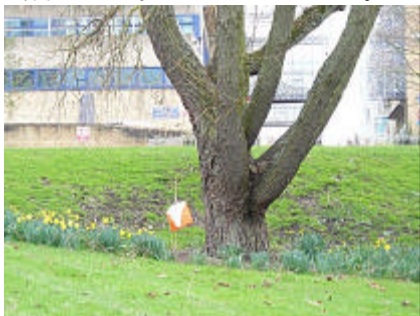


すぐ目の前のコントロール C-

すっきりしない・・・

コントロール は橋、沢、単独の独
 立樹、独立樹と独立樹のあいだ、小川
 と多彩な 6 課題。慣れてきたせいもあ
 ってか易しくなってきた感じだが、こ
 こでも 同じく二つの位置説明を持
 ったフラッグがあった。沢に大きな樹
 が立っており、「沢」、「独立樹南西側」
 が同一フラッグなのだ。(下写真参照)

フラッグ位置説明の要件は満たして
 いるわけだからこれで OK なのだろうが、
 気持ちはどうもすっきりしない。



「沢」であり「独立樹南西側」でもある。次表も

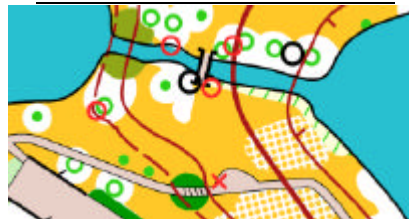
基本的理解を求める課題も

最後の は見通しの良い広いオーブ
 ン・エリアの中の、遠目の大小二つのこ
 ぶ(丘)を使った比較的やさしい 5 課題。
 基本的な知識が試されたのは「こぶ
 (丘)」だけの位置説明。この場合はこ
 ぶ(丘)の最高部ではなくこぶ(丘)全体
 の 1/2 の場所にフラッグがなくてはな
 らない。その位置判断で「Z」判断を求

めたものであった。

同じフラッグ・異なる位置説明の例 19 = 22

18	A-D	/				Z
19	A-D	∩				A
20	A-D	△	△	△	△	D
21	A-D	∩				B
22	A-D	△				A
23	A-D	△	△	△	△	Z



成績は合計所要時間で評価

フィニッシュのテントで Si チップを
 渡すと即ダウンロードされ成績が出る。

その成績だが、トレイル O の Sprint
 競技といわれる Temp0 だけあって、い
 つもの様な得点 + 秒数での成績評価で
 はなく、得点は加味せず合計所要時間
 の少ない者が上位となる。もちろん間
 違った課題には、所要時間 + 60 秒のペ
 ナルティが加わる。

トップは 28 課題中 24 問正解の 423
 秒。ペナルティを除いた 1 課題あたりの
 平均所要解答時間は 6.5 秒となる。
 ちなみに筆者は平均 14 秒。参加 36 人
 中の順位はご想像に任せたい。筆者の
 後にまだ何人かの名前があったが・・・

ともかくコツがつかめず、慣れない
 ままに競技終了という感じであった。

いろいろ (順不同)

- ・成績表の中で、コントロールごとの
 正解率ではなく「不正解率」を取り
 上げていたのは面白い。正解率より
 は一段とインパクトが強くなる。
- ・文中でも書いたが、同一コントロー
 ルでありながら課題となるフラッグ
 に向けて地図ごとに正置表示(磁北
 線角度)の変更を行っているのは不
 適当。
- ・コントロール・サークルの円の直径が
 5mm であったり 6mm であったり、不統
 一が見られた。
- ・「Z」があるため、コントロールごとの
 フラッグ数は最多 4 個で充分である。
- ・Si ステーションはかなり大きいので、
 どのステーションに Si チップを挿入
 し解答しているかが 次の競技者に
 見える場合が無きにしても非ず。対策
 が必要。
- ・EMIT より Si の方が使いやすいのは
 確かだ。競技開始時、最初に「S」に

チップを挿入したときのピープ音が、
 地図を見せる良いタイミングになる。

- ・50 秒になったときの警告が出ないの
 をどうしたものか。
- ・地図は 1 枚ごとに手渡すのではなく、
 厚紙に貼り付けてあり順番にバイン
 ダーにリングで綴じてある。課題ご
 とにページをめくって競技者に見せ
 ていた。運営者には地図の順番を
 間違えることが無いので良いが、競
 技者は地図を手にとって見れない不
 満が残るし、視力差のある競技者に
 どう対応するか。
- ・DP 担当役員が 1 名で済む利点は大き
 い。競技者の出入りを調整するだけ
 で、一切の記録などは行わない。ス
 トップ・ウォッチによるバック・アッ
 プもなし。
- ・移動距離が短いので移動障害者にと
 っても負担が少なくてすむ利点。
- ・T/C 用の地図は ISSOM、縮尺は 1:3000、
 コンターは・・・不明。要項、地図上共
 に記載無し。(斜角度で距離判定が必
 要な場所があり、縮尺表示は必要だ
 った)

大いに期待できる Temp0

Temp0 は想像にたがわず、いや、想像
 以上にスリリングで集中力の持続が試
 される 非常に面白いトレイル O 競技
 の 1 パートになりそうだ。メディア・フ
 レンドリーの要素もあり、アリーナへ
 のアピール度合いも大きいと思われる。

現在、北欧、欧州各国で Temp0 のさ
 まざまな方法での試行が行われている。

ある程度の試行実績を基にして IOF
 トレイル O 委員会等で実施基準が固め
 られ、IOF 総会への提案となるだろう。

今、日本としては、とにもかくにも
 トライアルの実施と検証が急がれる。

ご協力を。 (こやま たろう)

JK 2008 レイル O 大会

続く 3 月 22, 23 日の両日トレイ
 ル O 二日間大会が開かれた・・・が

DAY 1 はみぞれ模様の中、寒風にふる
 えながらもなんとか競技は出来た。し
 かし DAY 2 は南イングランドに雪が降
 り、積雪と吹雪にさえぎられてフラッ
 グはもとよりコントロール周辺が見え
 ない・・・という最悪の条件となった。車
 椅子競技者はぬかるみのため参加不可
 能。競技そのものも悪天候下では期待
 する成果には結び付くべくもなく、一
 時は開催中止も検討されたがなんとか
 実施したという実情。もちろんフット
 O も連日の雪に悩まされ、今年の
 JK2008 はさんざんな大会となった。ト
 レイル O コースについてのコメントは
 多々あるが別機会としたい。

(こやま たろう)